



命 ひびき合い

北鹿島地区民・学校・保護者
力を合わせて 子育て中

♥熱中症対策：①運動会までの期間中、スポーツドリンクを持参して良い。

②運動会当日、競技に参加しない時は「冷却タオル」等、身体を冷やす道具を使用して良い。



雪の日にライオンを見に行く 5年 中野 由菜・作

この物語は、人前で話すことが苦手な男の子が、少しずつ自分を変えていく話です。この本のいいところは、私たちの周りには、色々な人がいて、色々な人生があり、色々な考え方や感覚があるということを感じさせてくれたところです。

わたしが、この本を読んで、心に残ったことは、緞子先生の「そういう子がおってもええんよ。自分とちがうからって気に入らんなんて言うたらあきません。」という口ぐせです。緞子先生は、よくケンカをする子に対して、この口ぐせをよく言いました。

他にも、緞子先生は、机の下ににげこむ子がいても、無理に引っぱり出そうとせず、絵が上手くかけなくていじける子がいても、二生けん命やっている人を笑ったらいけないことを、クラスのみんなに話をしていました。

わたしも低学年のときにクラスに入ることが気まずい時期がありました。だけど私の学校の先生たちは、優しく接してくれて、無理にクラスに行かせることはありませんでした。また、クラスで勉強したくない私の気持ちを理解してくれて、少人数クラスで学習させてくれたり、朝から落ち着かない時は、1時間目が終わるまで保健室に居させてくれたりしました。クラス以外の場所にも私の居場所をつくってくれて、私は救われたような気持でした。その先生たちの姿と緞子先生が重なり、物語に出てくる人たちに強く共感することができました。

そして、もう1つ心に残っていることは、転校生のアズについてです。アズは、自分から友だちに話しかけることはなく、一緒に遊ぼうともしませんでした。周りからは、すぐ怒るので「爆発」と呼ばれていました。でも、この本を読んでいくうちに、アズは、心に自分の考えをしっかりとっていて、実は、とても優しい子だと思いました。

アズは、認知症のおばあちゃんがアズを、よし子さんだと思って話しかけてきても、アズは、よし子さんになりきって話をしていました。その前にも、クラスでリーダーを決める時に、いつもお願い事を断ることができない里奈ちゃんに決まった時、アズは、(裏につづく)



青少年読書感想文コンクール 地区審査結果

【課題図書の一部】

入選

3年 田中 煌之助

「聞いて聞いて！ぼくの耳のきせき」

佳作

1年 廣川 未羽「アザラシのだいぼうけん」

2年 岡 琥牙「ごめんてこいを読んで」

【自由図書の一部】

特選

5年 中野 由菜「雪の日にライオンを見に行く」

入選

2年 馬郡 奇跡「ゆめにむかって」

4年 唐島 美怜「大谷選手から学んだこと」

佳作

1年 橋本 成矢「ぼくのだいピンチ」

3年 松崎 蓮

「戦そうを知った日『なきむしせいと』」

4年 宮崎 華「あのとき すきになったよ」

6年 家永 悠羽「佐賀の昔話を読んで」

一人だけ納得がいかないと意見を出していました。

みんなからは「爆発」と呼ばれていましたが、私は、アズの行動は、正しいと思いました。自分の意見を言えない性格の人もいれば、勝手に決めていく人もいます。縝子先生の考えからしたら「どんな人がおってもええ」けど、その人の意見を聞かずに、無理やりその人を決めつけるのは良くないことだと思います。

私は、この本を読んで、人の性格や考え方、感覚など、色々なことに気づくことができました。その中で、私は、自分の心をしっかり持ち、いつでも友達を助ける立場でいたいと強く思いました。

8月20日「校内いじめ防止等対策委員会」を行いました

この日、専門家や各関係者の方々をお招きし、北鹿島小で行っているいじめ防止対策や不登校対策について各方面からご意見・アドバイスをいただきました。

【メンバー】 スクールカウンセラー 百武 泉 様
警察 OB 野中 健 様
市福祉課家庭相談員 蒲原 智子 様
北鹿島小 PTA 会長 田中 耕作 様
学校からは「校長」「教頭」「教務主任」「教育相談担当」「生徒指導主任」

【いただいたご意見】

- ・ 数年前とすると、いじめの認知件数がとても増えている（※）。
- ・ 生活アンケートについて、記述があった児童に対して細かく対応がされていて驚いた。保護者は安心して学校へ登校させることができるのではないかと。1年生の保護者の中には、学校に登校させることに不安を抱いている方もいる。
- ・ 低学年の児童は、分からずに行動していることもある。丁寧に対応していくことで何をしたら人を傷つけるのかを、子どもたち自身が学んでいくことができる。
- ・ 社会体育や学童で起きたトラブルに関して、学校が把握しておくことは大切だが、本来はそこで解決をしてもらうべきではないか。
- ・ 地域の中で子どもを育てるという意味では、もっと民生委員さんと連携していけるのではないかと。

※ いじめの認知件数

いじめを認知する目的は、いじめの解消を急ぐのではなく、3カ月以上の経過観察を行い、その期間中、子ども等一人一人の社会性を育て、自分以外の人も大切な存在として認めていけるようにするために行っています。「本人が嫌だと思う」「その事実がある」、この2つがそろって基本「いじめ」として認知することになります。小さなトラブルも見逃さない、なるだけしっかりと子ども等の生活を見ていこうという考え方から、現在はいじめの認知件数は、全国の小中学校で増えています。文部科学省も「いじめの認知が多い学校」には高い評価を与えています。

佐賀県児童生徒理科作品展覧会 入選 おめでとう

- | | |
|------------|-------------------------------------|
| 6年 山口 創 | 「三角形で作るトラスを使ってどのくらいの重さにたえられるか実験したよ」 |
| 6年 向井 梨紗 | 「10円玉をぴかぴかにする身近な液体は？」 |
| 6年 伊東 陽 | 「鹿島川の河川にさく野草を調べよう」 |
| 6年 小池 琉愛 | 「ビタミンCを調べよう」 |
| 6年 一ノ瀬 和巳斗 | 「ぼくたちの生活と水」 |
| 4年 中山 美月 | 「宇宙について」 |
| 4年 卜部 来輝 | 「氷をとかす実験」 |
| 4年 宮崎 華 | 「発酵食品について調べよう」 |
| 4年 小池 怜依菜 | 3年 小池 梨歌 「どうしてパンは、こうぼを使うの？」 |